

事業所名

児童発達支援 らじえむ

支援プログラム

作成日

2025年

3月

27日

法人（事業所）理念		安心・安全な場で人と出会い、継続的なつながりやさまざまな体験の機会を通じて自己肯定感を高め、人が本来もつ可能性を引き出していく。ソーシャルワークの専門家による支援に重点を置き、見えないところでSOSを出せずにいる人を見つけ、“アクションをおこす”。また、ほしい資源やサービスがなければ、“ないものは創る”をモットーに活動する。						
支援方針		『子どもたちが安心してのびのびと過ごせるような居場所づくり』『子どもたちが自分らしく生活する未来のための支援』これらの目標を達成するため、子どもたちが社会に出る時に必要な生活力やコミュニケーションスキルが身につくように支援していきます。らじえむが大切にしていることは、『安心して過ごせる居場所づくり』『仲間づくり』『1人1人の個性に合わせた支援』『本人と一緒に考える・決める』です。						
営業時間		10時	30分	18時	30分	送迎実施の有無	あり なし	
		支援内容						
本人支援	健康・生活	○生活リズムの安定（定期的かつ定時に通所する。） ○定期的な心身の把握（保護者や本人から聞き取りを行う。支援中に本人の様子を適時観察する。） ○SNSの正しい使い方（子どもと一緒に考える。）						
	運動・感覚	○ストレッチや軽い運動（体を動かし、基礎的な体力を身につける。） ○外出企画など体を動かす機会の提供（様々な体験・経験を得て、意欲を引き出す。） ○農業体験（自然に触れて、五感を研ぎ澄ませる。）						
	認知・行動	＜適切な認知と行動の習得＞ ○日々の生活や他者との関わりについて本人と振り返りを行います。振り返りながら客観的な意見も伝えることで本人の自己理解を促していきます。本人が自分の得手不得手を知り、どのようにすれば、充実した日々を過ごせるのかを一緒に考えます。様々な考え、捉え方があることに気付くことができるように対話を行います。						
	言語コミュニケーション	＜気持ちの言語化、伝え方の習得＞ ○小集団活動の中で必要に応じて個別に時間を作り、児童と対話を行います。本人の気持ちを受容し、言い替えや代弁を行いながら本人の気持ちの整理、確認を行います。気持ちに該当しそうな言葉を伝え、正しいモデルを示します。どのように他者へ気持ちや考えを伝えるか、本人とともに考えていきます。						
	人間関係社会性	＜同年代（中高生）を中心とした仲間づくり。集団活動。同年代児童との遊びや雑談などリアルな場面でのSST。他者への信頼関係の定着。＞ ○チームに別れて対戦したり、全員で協力するレクリエーションを行っています。支援員が必要に応じて間に入り、協力して物事を進めたり、決めていく練習をしていきます。リアルタイムに声掛けや指導を行い、実践的なSSTに取り組んでいます。 ○安心できる環境を整え、支援員や同年代児童との関係性の構築を大切にしていきます。他者に受け入れられ、集団の中で安心して過ごせることを目指していきます。						
家族支援		○必要に応じて定期的な面談を実施する。 ○保護者交流会などの開催による子育て支援を通じて、ご本人だけでなくご家族全体へアプローチし、家族全体を支援する。			移行支援		○小学校、中学校、高校進学などのライフステージの変化に合わせて、関係機関と連携している。児童の様子やどのような支援を行っているのかを共有し、場所が変わっても支援が円滑に行われるようにする。	
地域支援・地域連携		○学校やその他福祉事業所と連携を図り、具体的な子どもとの関わり方の提案やポイントについて協議することで、地域全体の支援の向上を図る。			職員の質の向上		○社内外の研修や事例検討等を行い、職員の質の向上を図る。 ○法定研修(虐待防止、ハラスメント、感染症予防、人権、BCP)を通じて職員の意識の向上を図る。	
主な行事等		○夏休みの外出企画 ○土曜日のイベント企画（外出や農業、調理体験、ゲーム大会など） ○こもれび文化祭 ○こもれび卒業セレモニー						